

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 練馬区教育委員会
2. 研究主題 : 魅力ある学校統合事例の創出
※事業計画書「3. 研究主題」と同じ
3. 研究タイトル : 地域とともに進める学校統合と魅力ある学校づくり
※事業計画書「4. 研究タイトル」と同じ
4. 研究課題 : ○芸術のまちづくりの拠点を担う小中一貫教育校の開校に向けて
○芸術的な教育活動と学力向上を図る9年間の教育プログラム

※事業計画書「5. 研究課題」と同じ
※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

旭丘・小竹地域の小学校と中学校の教育環境を改善するために、中学校1校と同じ中学校区にある小学校2校を小中一貫教育校とする調査研究を進めている。これを契機として、①児童数の減少に伴う学校の過小規模化、②小中一貫教育の推進、③地域特性を活かした魅力ある学校づくり、④効果的・効率的な学校改築の実現という複合的な課題を総合的に解決する方針について、保護者や地域の理解を深めることができた。

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。

(2) 調査研究の実施状況（平成29年度）

事業名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
魅力ある学校づくり 推進会議											第8回	
魅力ある学校づくり 幹事会	第17回	第18回	第19回	第20・ 21・ 22回	第23回	第24・ 25回	第26・ 27回	第28回	第29回	第30・ 31回	第32回	第33回
魅力ある学校づくり 企画会/ クリエーター会	第7回	第8回	第9回	第10回		第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回
3校全体会		第6回	第7回	第8回					第9回	第10回		
学力向上プログラム 指導	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
芸術活動プログラム 指導				●	●		●			●	●	
外国語指導	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
3大学との連携 (※1)	●		●	●	●	●	●	●	●		●	●
小中連携 小中連携 (※2)	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
その他 (※3)									●	●	●	●

- (※1) 4月：武蔵大学学生による旭丘中学校の社会科授業研究（通年）
6月：新たな学校づくりに向けて日本大学藝術学部・武蔵野音楽大学と協議
武蔵大学・日本大学藝術学部・武蔵野音楽大学学生による旭丘中学校の定期考査前
学習を補助 延4回実施（6・9・11・2月）
7月：武蔵野音楽大学学生のプレ教育実習を小竹小学校で実施
8月：新たな学校づくりに向けて武蔵大学と協議
10月：日本大学藝術学部学生が旭丘中学校文化発表会の練習を補助（2週間）
12月：武蔵大学留学生が旭丘小学校児童と交流
武蔵野音楽大学准教授による小竹小学校教員の小中一貫教育研究授業の講評
3月：日本大学藝術学部学生が旭丘中学校合唱コンクールの練習を補助（2週間）
- (※2) 4月：旭丘小学校外国語活動乗り入れ授業 延3回（1・2月）
小竹小学校外国語活動乗り入れ授業 延18回（5・6・7・10・11・12・1・2・3月）
6月：小小連携 延4回（6・7・10月）
特別支援学級による小中連携 延4回（6・7・11・12月）
旭丘中学校の部活動体験
9月：旭丘中学校の学校説明会
旭丘小学校が保健体育で乗り入れ授業を実施
旭丘中学校生徒がボランティアとして旭丘小学校の運動会の運営補助
旭丘中学校生徒がリトルティーチャーとして旭丘小学校で授業補助
- (※3) 12月：旭丘・小竹地域における保護者および地域説明会（第3回）を実施
1月：ねりま小中一貫教育フォーラムにおいて3校の取組内容を発表
第12回小中一貫教育全国サミットに参加
2月：練馬区役所内アトリウムで小中一貫教育の取組内容を示したポスターを展示
3月：旭丘中学校区小中一貫教育リーフレットを地域に配布
小中一貫教育啓発リーフレットを地域に配布

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<p>○学校評価で「歌を歌ったり、いろいろな楽器を演奏したりすることが好き」と回答する児童生徒の割合。 ■目標値90%以上（28年度：85%）→85% 目標値に達しなかったものの、鑑賞や器楽合奏の授業を中心とした取組により、曲想の変化の聞き方、感じ方を言葉で表現する力が効果的に高められ、児童生徒の語彙が豊かになった。また、創作活動や発表等を通して主体的な表現の工夫を深めることができた。</p>
<p>○学校評価で「外国人とふれあったり英語を話したりするのが好き（小学生）」「外国人から英語で道をきかれたら何とか説明しようと思う（中学生）」と回答する児童生徒の割合。 ■目標値75%以上（28年度：75%）→79% 英語で道案内をする授業を小中の教員が連携して行うなど、英語によるコミュニケーション活動を充実させたことで、主体的に表現を工夫して伝えようとする意欲が高まり、スキルも向上することができた。</p>

○学校評価で「学校は地域コミュニティの拠点となるよう努力している」と回答した保護者の割合。

■目標値90%以上（28年度：88%）→93%

3校合同研究会で、授業公開を行い、保護者・地域から多数の参観を得た。アンケートには、小中一貫教育の成果に対する肯定的な評価が多く見られた。そのほかにも青少年育成委員会と共催の地区祭や音楽会等を開催して、保護者・地域の協力を得るとともに、学校教育への理解が深まった。

○教員アンケートで「小学校と中学校の教育風土の違いや児童生徒の違いや児童生徒の違いを確認し、小中一貫教育校の設置に向けた研究が深まった」と回答した教員の割合

■目標値80%以上（29年度新規）→76%

3校合同研究会をはじめ、課題改善カリキュラムの検証や協働での授業づくりを通して、活発で深い議論が行われた。児童生徒の発達段階や実態についての共通理解が深まり、指導の工夫について日常的に教員同士の意見交換や教材教具の共有が進んだ。学校間の情報・意見交換を緊密にするツールとして、校務支援システムをより効果的に活用することによる改善策を見出すことができた。

※必要に応じて、適宜、表を追加・削除すること。

(2) 成果物等

○地域とともに進める学校統合と魅力ある学校づくり報告書（29年度）

○別紙1「新校舎教室配置（案）」

○別紙2「新校舎建設中教室配置（案）」

○住民説明会資料（第3回）

○小中一貫教育啓発リーフレット

○旭丘中学校区小中一貫教育リーフレット

○小中一貫教育研究報告書

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

※成果物（冊子・パンフレット等の印刷物）については、10部添付すること。

※成果物（冊子・パンフレット等の印刷物）の電子媒体がある場合は、併せて送付すること。

(3) 今後の取組予定

①児童数の減少に伴う学校の過小規模化、②小中一貫教育の推進、③地域特性を活かした魅力ある学校づくり、④効果的・効率的な学校改築の実現という複合的な4つの課題を総合的に解決する対応方針案について保護者や地域住民から広く意見を聴取するため、引き続き住民説明会を開催し、地域との合意形成を進めてきた。

昨年度の取組内容を踏まえ、中学校教員による乗り入れ授業を公開授業で行ったり、小中一貫教育の取組（区全体ならびに3校独自）を紹介するリーフレットを保護者だけでなく地域全域に配布したり、ねりま小中一貫教育フォーラムを広く周知したりするなど、小中一貫教育の取組についての周知・啓発を重点的に取り組んだ。また、住民説明会では、施設一体型の小中一貫教育校について他自治体の取組事例を交えながら説明することにより、地域住民の理解度が深まった。

「新たな小中一貫教育校の基本方針」の策定に向けて、引き続き住民説明会の開催や個別対応を丁寧に行うなどにより、合意形成に努める。

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。